酪農学園大学・立教大学　連携協定締結記念シンポジウム

縮小社会における地域の環境問題

～R×Rで育くむ環境リーダーが地域の課題を解決する～

酪農学園大学　R×R　立教大学

地域の環境課題は、もはや一つの学問領域では解けない――。
酪農学園大学と立教大学は、北海道と東京、地方と都市の知を組み合わせ、未来の環境リーダー育成に向けた新たな連携「R×R」をスタートします。本シンポジウムでは、本学環境共生学類と立教大学環境学部の教員による講演とパネルディスカッションを通じて、「今、直面している環境課題とその解決」をテーマに、新たな共創の可能性を探ります。

2026年 1月10日（土）

13:00～16:00

会場　酪農学園大学 黒澤記念講堂

参加費無料（事前申込制）

主催：酪農学園大学　共催：立教大学

Program

第1部　問題提起と、R×Rによって実現できること

ヒグマ問題に向き合う地域社会と社会科学の役割
酪農学園大学　農食環境学群 環境共生学類　教授　佐藤 喜和

観測と教育でつなぐサステナブルな未来
地域課題と地球環境に挑む次世代リーダーと学生の共育
酪農学園大学　農食環境学群 環境共生学類　教授　吉田 磨

現場で培う実践力 ー環境教育学の視点から
立教大学　環境学部開設準備室　教授　二ノ宮リム さち

第2部　未来に向けて

R×Rによる未来共創への期待
学校法人酪農学園　理事長　髙島 英也

パネルディスカッション

酪農学園大学と立教大学が協働すると
何が生まれるのか？ ～R×Rによる未来の共創～

パネリスト
酪農学園大学　岩野 英知、佐藤 喜和、吉田　磨
立 教 大 学　小林 潤司、二ノ宮リム さち

モデレーター　酪農学園大学　立木 靖之

参加申込はコチラ
本シンポジウムは事前申込制です。
右記フォームよりお申込みください。

裏面では、講師の紹介を掲載しています。

お問い合わせ
酪農学園大学社会連携センター　地域連携課
北海道江別市文京台緑町582番地
TEL 011-388-4131　E-mail rg-ext@rakuno.ac.jp

講師の紹介

酪農学園大学

クマ問題、気候災害、水環境の悪化など、多様な環境課題が深刻化しています。これらは学問分野の枠を超えた、地域社会との協働が欠かせないテーマです。立教大学環境学部が強みとする「リベラルアーツ」と「環境リーダー育成」、そして酪農学園大学が長年実践してきた「地域に根差した実学教育」。この二つを掛け合わせることで、「地域課題の現場にコミットできる新しい環境人材」を育むことがR×Rの目指す姿です。

本シンポジウムでは、酪農学園大学 環境共生学類と立教大学 環境学部の教員による講演とパネルディスカッションを通じて、「今、直面している環境課題とその解決」をテーマに、新たな共創の可能性を探ります。

立教大学

ヒグマ問題に向き合う地域社会と社会科学の役割

酪農学園大学　農食環境学群 環境共生学類　教授　佐藤 喜和

酪農学園大学環境共生学類・教授。博士（農学）。ヒグマの生態研究を専門とし、人とクマとの問題解決を目指して政策提言や被害防止対策、普及啓発などの活動も行う。北海道ヒグマ保護管理検討会・座長、知床世界自然遺産地域科学委員会ヒグマWG・座長などを務める。主著書に「アーバン・ベア―となりのヒグマと向きあう―」（東京大学出版会）がある。

観測と教育でつなぐサステナブルな未来 地域課題と地球環境に挑む次世代リーダーと学生の共育

酪農学園大学　農食環境学群 環境共生学類　教授　吉田　磨

北海道大学大学院地球環境科学研究科博士課程修了、博士（地球環境科学）。東京工業大学で日本学術振興会特別研究員（PD）を経て、2006年より酪農学園大学に勤務、2019年より教授。流域生態系や湿地保全、海洋物質循環の研究を通じて地球温暖化の観測を実施し、学生とともにフィールド観測を重ねている。地域の環境教育にも注力し、環境キャンプを16年継続。さらに、地球温暖化対策実行計画策定委員会の委員長・座長や自治体の審議会委員を多数務め、科学と地域をつなぐ持続可能な地域づくりに貢献している。

現場で培う実践力 ー環境教育学の視点から

立教大学　環境学部開設準備室　教授　二ノ宮リム さち

1990年代終盤から、国内外で環境教育・ESDの実践と推進に取組み、2008年より大学教育へ。東京学芸大学環境学習推進専門研究員、東京農工大学環境リーダー育成センター特任准教授、東海大学スチューデントアチーブメントセンター／大学院人間環境学研究科教授等を経て、2024年4月より立教大学環境学部開設準備室教授。R5環境教育等推進専門家会議座長、R6環境教育評価指標有識者検討会座長など。

R×Rによる未来共創への期待

学校法人酪農学園　理事長　髙島 英也

1959年福島県伊達市生まれ。東北大学農学部卒業後、1982年にサッポロビール入社。仙台工場長、取締役経営戦略本部長、北海道本部長などを経て2017年から2021年までサッポロビール代表取締役社長。ビール製造の現場に27年間関わり、その後経営の指揮を執ってビールブランドの強化などに取り組んだ。2022年6月から東邦銀行（福島市）社外取締役、2023年7月からは学校法人酪農学園理事長を務めている。学校法人酪農学園の建学精神である『健土健民』と『三愛精神』に、強く深く共鳴している。

パネリスト

酪農学園大学
学長
岩野 英知

酪農学園大学学長。獣医学教育の中で獣医生化学を担当し、生命科学の基盤となる教育に取り組んでいる。研究面では、薬剤耐性菌対策としてのバクテリオファージ研究を進め、基礎から応用、臨床への展開を目指している。また、建学の精神をもとに、地域と環境に根ざした実践的な教育改革を推進し、学生が社会課題に向き合いながら学ぶ仕組みづくりに力を注いでいる。

パネリスト

立教大学
環境学部開設準備室
教授
小林 潤司

東京大学大学院理学系研究科で修士（理学）、博士（理学）を取得。同理学系研究科で助教、国際基督教大学教養学部で准教授、上級准教授を務めた後、2024年4月より立教大学環境学部開設準備室教授。専門は有機化学、有機典型元素化学。研究対象は元素の特性を活かした環境物質の検出。

モデレーター

酪農学園大学
農食環境学群
環境共生学類　准教授
立木 靖之

北海道大学大学院農学研究科で博士（農学）を修了。NPO法人EnVision環境保全事務所にて10年間野生動物管理の現場に従事し、2016年よりマレーシア国サバ大学准教授、2018年4月より現職。野生動物管理や地域の生物多様性保全と人間事象（Human dimension）を専門とし、地域に根ざした野生動物管理・生物多様性保全のあり方をテーマに研究を実施。